



●書籍のご購入や内容等については最寄りの書店や発行元にお問い合わせ下さい



## 『協同の系譜 農の未来を拓いたリーダーたち』

日本農業新聞 著

日本農業新聞 刊

定価 2,200円 (本体2,000円+税)

日本農業新聞の連載記事が一冊の本になった。協同組合運動に尽力した人物たちの評伝で、登場するのは協同組合の共済事業を作り上げた賀川豊彦、昭和期の農協運動を先導した宮脇朝男、北海道の酪農と製酪販売組合を発展させた黒澤西蔵、農協組織の礎を築いた千石興太郎、そして農村医学という分野を確立した若月俊一の5人。編著者らは膨大な資料の中に分け入り、彼らの足跡を精到に記した。

全国農協中央会をけん引した宮脇朝男の章は読み応えがある。農民運動にのめり込んだ活動家が農協に入って米価闘争の立役者となり、農産物輸入自由化を迫る米国の圧力に対抗してきた道のりが迫力満点に描かれていて、生産者や消費者を軽視する当時の日本政府・米価審議会の姿勢やその背景も、明確な輪郭を伴って浮かび上がってくるのだ。

社会活動と著作の功績で幾度もノ

ーベル賞候補になった賀川豊彦が、実は毀誉褒貶相半ばする人であったという意外な事実も明かされる。弱者に寄り添いながらも著作中に現れている優生思想や差別的見解の持ち主であると当時の対抗勢力から批判されていたという話は現実感があり、それによって賀川の社会における戦いがいかに熾烈であったかも察知できる。

5人に共通する農家への献身、自省と対話を止めない姿勢は生涯揺らぐことがなかった。決して華々しいヒーロー列伝ではない。彼らの、他者の命と権利を当たり前のように背負って立ち、戦ったという不器用なまでに一途な生き様が、哀切さを持って伝わってくるのだ。

国連は来年を第2回目の国際協同組合年とする。協同組合の意義を問い直す時期だ。誰一人取り残さないという持続可能な開発目標の原則は協同組合の理念と重なる。「自分の生活で精一杯」と視野狭窄に陥っている現代の私たちに、彼ら5人が無言で批判的精神を問い掛けているように思える。(日本農業新聞 齋藤<sup>さいとう</sup>花<sup>はな</sup>)